



FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第42号

2011.9.7

FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

FSCセンター長兼八雲牧場長新任挨拶

萬田先生の後任の寶示戸雅之（ほうじとまさゆき）です。私の前任地は農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所（那須）、草地多面的機能研究チームでした。つまり、私の専門は草地土壌、環境といった分野で、牛のことを全くと言っていいほど知らずに赴任いたしました。告白します。私はまだよくわかりません。北里八雲牛のことが。しかし、これは考えようによっては好都合なことかもしれません。今や北里八雲牛はテレビや新聞で数多く取り上げられたおかげで知名度が上がり、注文に生産が追いつかないほどです。しかし、北里八雲牛とは何者か、その特徴は何か、生産過程はいかなるものかという、言わば科学的検証はこれからやることです。急いでやらねばなりません。当面、私はそのことを念頭に、勉強の毎日を過ごします。今後とも、どうぞよろしくお願ひします。



十和田農場から

新人職員自己紹介

初めまして、4月から十和田農場勤務になりました田中ゆいと申します。十和田農場初の女性職員として華々しくデビューいたしました。

私は生まれも育ちも青森県で、大学も弘前大学を卒業しているため、豊かな自然環境に慣れ親しんで生活してきました。しかし、動物と触れ合うことは動物園や水族館でしか経験がなく、ましてや動物の飼育管理などは未知の世界でした。そんな私がまさか農場のおねえさんを務めることになるとは思いもしませんでした。

初めは不安でいっぱいだった農場勤務でしたが、今はとにかく動物に慣れ、知ることを目標として



頑張っています。友達 100 人（頭）目指して、十和田農場をもっと明るくできたらいいなと思っています。

八雲牧場から

放牧開始

去る5月23日、雪解けが遅かったことから、昨年より1週間遅れて放牧を開始しました。今年は、放牧馴致群を設け、放牧開始時の体重減少への影響を八雲牧場独自で調査しています。また、今年も獣医学部循環型畜産研究会の放牧牛に関する多くの研究課題に協力する予定です。



グラスサイレージ収穫開始

6月20日より、今期越冬用飼料のグラスサイレージの収穫が開始されました。今年は天候にも恵まれ、天候の悪かった昨年より良質なサイレージを牛達に与えられそうです。

和泉医学部長、河原医学科長、伊藤獣医学部長、向井動物資源科学科長、萬田客員教授、寶示戸牧場長来場

和泉医学部長と河原医学科長が、医学部1年次生による実習場所となる八雲牧場の視察および農医連携の打合せのため、5月27日～28日に来場されました。27日夜に到着して、翌日早朝に出発するという強行日程ではありましたが、伊藤獣医学部長、向井動物資源科学科長、萬田客員教授、寶示戸八雲牧場も来場され、八雲牧場職員を加えての懇談により、牧場実習への期待を膨らませてお帰りいただいたものと思います。

(編集担当：畔柳 正)